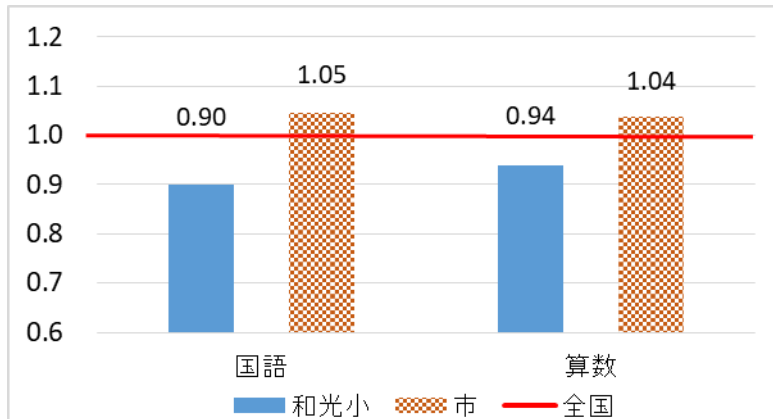


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第五中学校区 和光小学校

第6学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

「知識及び技能」の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」領域の「文の中における修飾と被修飾の関係を考える」と、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」領域の「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」問題が全国平均を上回る結果であった。引き続き、授業の中で言語活動を積極的に取り入れ、自分の思いや考えをことばで表現できる力を育む学習活動を大切にしていく。

【算数】

「測定」領域の「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」と「条件に合う時刻を求めることができる」問題が全国平均を上回る結果であった。引き続き、基礎基本の学習を確実に積み重ねながら、問題解決型の授業を通して、日常の事象や既習事項と関連付けて考えることのできる学習活動を大切にしていく。

【質問紙調査】

「学校の授業時間以外に、普段、一日当たり、どれくらいの時間、読書をしますか」の質問に「2時間以上」と回答した児童の割合が全国平均を上回る結果であった。依然として「全くしない」と回答した児童の割合は多い傾向にあることから、引き続き読書に親しむ取組を進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

学力調査の結果を分析し、課題を共有している。また、毎学期、各校の取組・進捗状況を情報交換し手立ての確認を行うとともに、ディベート教育・道徳教育を柱に考える力を育む「授業づくり」研修会も実施し、朝の時間の有効活用についても各校で工夫を行っている。

【学校】

朝の読書タイム・毎週月曜日1時間目の音読タイムで集中力を育み、「宿題毎日プリント」を徹底することで、学習内容の定着を図る。また、授業では「めあて」「ふりかえり」を大切にし、見通しを持って主体的に学ぶ姿勢と考える力を育み、根拠を明確にしながら表現する言語活動を取り入れることで、確かな学びを育んでいく。